

2002 年度 5 月総会議事録

【日時】 2002 年 5 月 11 日（土） 15:50～17:40

【会場】 国立スポーツ科学センター2F 小会議室

【参加者（会員）】 19 名

麻生征宏（学習研究社） 上間匠（東京大学教育学研究科） 宇都宮徹老（写真家） 浦和俊介（名古屋大学国際開発研究科） 大松暢（佐藤工業） 高妻容一（東海大学） 笹原勉（日揮） 田中俊也（三田市整形外科） 津田綾女（(株)クラブハウス） 内藤隆（横浜FC） 仲澤眞（筑波大学体育科学系） 中塚義実（筑波大学附属高校） 中村敬（サッカーコーチ） 橋本潤子（ライター） 堀美和子（国立スポーツ科学センター） 本多克巳（(株)クラブハウス） 松岡耕自（立命館大学国際関係研究科） 水上潔（日立製作所） 宮崎雄司（(有)オフィスアステカ代表／サッカーマニア編集長）

【参加者（未会員）】 なし

【委任状提出者】 51 名

【欠席者（委任状未提出者）】 29 名

注）参加者は、所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

2002 年度総会

■2002 年度サロン 2002 会員 100 名（5 月 11 日現在）の内、70 名（内、委任状提出者 51 名）の出席が得られたため、規約第 12 条に定められた議事の議決の成立要件である『会員の過半数の出席』を満たしており、2002 年度 5 月総会（以下、本総会という）の議事の議決は有効である。

「●」以下の文章は、出席者より出された意見を表しています。

< 1 > 開催挨拶 中塚氏より

< 2 > 議長選出

規約第 10 条 3 項により、サロン 2002 代表中塚氏が本総会の議長を務める。

< 3 > 報告事項

1. 2001 年度事業報告及び決算

1) 事業報告、2001 年度月例会決算報告、ワールドカップ・プロジェクト I 会計報告を中塚氏より説明。

- ・月例会決算の残金の 7,000 円は 2002 年度収入に繰入する。
- ・ワールドカップ・プロジェクト I に全体会計より 50,000 円を補助した。
- ・ワールドカップ・プロジェクト I の残金の 2,499 円は、ワールドカップ・プロジェクト II に繰り越す。

2) 決算報告を会計担当川井氏が欠席のため、監査役笹原氏より説明。

< 収入 > 443,487 円 < 支出 > 443,487 円 (内、次年度繰越金 184,230 円)

2. 2002 年度会員募集について

5 月 11 日現在、入会意思表示者は 100 名 (内、会費納入者は 76 名)。

入会意思表示なく会費を納入した者が 4 名、退会意思を表示した者が 12 名いた。

3. 役員会報告

2001 年度末役員会について中塚氏より報告。

(詳細は 3 月 21 日のメール「サロン 2002 : 役員会報告」をご参照下さい)

4. 2002 年度役員について

代表	中塚義美
幹事	笹原 勉(代表代行) 内田正人 宇都宮徹吉 長岡 茂 本多克巳
監査役	仲澤 真

なお、2002 年度事務局として以下の方をお願いした。

代表会計兼名簿担当	川井寿裕
ホームページ担当	本多克巳 津田綾女
メーリングリスト管理人	湧田龍治

< 4 > 審議事項

1. 2002 年度事業計画及び予算

< 事業計画 >

1) 名簿作成

- ・会費で作成

2) 月例会

- ・従来どおり参加費で運営。残金はプールし、全体会計に納入する。
- ・原則的にサロン 2002 の会員内でテーマ・情報を出し合うスタンスで開催する。

3) プロジェクト

- ・サロン 2002 公認プロジェクトと未公認プロジェクトがあり、公認プロジェクトの明確な基準、手続きについて役員会で案を作成する。
- ・プロジェクト活動外での論文作成等においてプロジェクトの成果（研究データ等）を使用する際の著作権の帰属や使用許可の基準を今後役員会で検討する。
- ・サポーターズ・プロジェクト 2002（以下、SP2002 という）について（宇都宮氏より説明）

SP2002 は JSA が中心となってやることで JSA 浅野氏と宇都宮氏が合意に達し、プロジェクトを進めていく。サロン 2002 初の未公認プロジェクトとしてサロン 2002 と一線を画した活動として行い、サロン 2002 は SP2002 に関する一切の責を負わないものとする。但し、サロン 2002 公式ホームページの「ワールドカップの物語」の BBS を SP2002 で利用することは了承された。

●サロン 2002 が組織としてプロジェクトを行い責任（特に金銭にまつわる）が生じた場合、母体的にまだしっかりしていないので責任を負えない状態にある。また、情報交換や人的交わりなど「ゆるやかなネットワーク」の一員としての参加を希望し、組織として何かの事業を行うことには積極的でない会員も多いのではないかと。

●プロジェクトはその性格にもよるが、基本的にはやりたい人が有志で集まり自己責任の中で行えばよいのではないかと。場合によってはプロジェクトが法人格を取得するなどして独立した組織となることも考えられる。

- ・ワールドカップ・プロジェクト II（中塚氏より説明）

ホームページ上の「ワールドカップの物語」がもう少し増えた時点でメーリングリストなどを利用して

一般に広く告知していく。

- ・フットサル・プロジェクトⅡ（澤井氏欠席のため中塚氏より説明）

4) 出張・合宿・お出かけ

- ・今後、出張サロンをもっと活性化させて実施していきたい。
- ・ワールドカップ総括シンポジウム（7月下旬、8月上旬に首都圏、関西圏で実施予定）の日程・中身は詰めて今後会員に連絡する。

5) 情報発信

- ・サロン 2002 の公式ホームページは、(株)クラブハウスがボランティアベースで本年度も引き続き運営する。

<予算案>

<収入> 400,000 円 <支出> 400,000 円

- ・昨年度からの変更点→総会会場費は総会参加者からでなくサロン 2002 の全体行事なので全体予算の中から支出することとする。

2. 規約の検討

1) 笹原氏の規約改定に関する提案（以下、笹原提案）について

- ・「サロン 2002 設立宣言」は、本年度は従来通りにし、今後、「志」、「会員」部分を見直していく。

<サロン規約について>

- ・第2条を『サロンは、「サロン 2002 の"志"」の達成を目的とする』に変更する。
- ・第3条二項に「プロジェクトの承認」を挿入する。
- ・第3条「二 サロン 2002 in にいがた、・・・」を「三 サロンと目的を同じくする事業への参加」に変更する。
- ・第3条「三 ホームページの開設」を「四 ホームページの運営」に変更する。

今回出された笹原提案の大枠を承認したが、規約に適切な用語については専門家の意見を聞き、本総会で決定した事項と同意義内で使用する用語を変更する必要がある（本総会承認事項）

ex) 「承認」を「認可」、「運営」を「運用」など

また、「サロン 2002 設立宣言」は、2000年4月1日付けの"歴史的文書"として改廃できない性格のものであることが確認された。

2) 代表者と役員を選任方法

代表と幹事・監査役の選出方法、手続きを明確化するため、2003年度から規約附則3及び4を改廃することを前提に役員会、メーリングリスト等で変更案を今後検討する。

- 現規約や代表者を選挙で選ぶ方法では中塚氏が代表に選ばれ続ける可能性が高い。会の将来のためにもポスト中塚を育てるために役員7名を選挙で選び役員の中から互選で代表を選ぶべきだ。
- 上記の方法だと同じ職業の役員が7名選ばれるケースも考えられる。よって代表を会員の選挙で選び、選出された代表が役員を指名する方法の方が役員のバランスをとる意味でもふさわしいのではないか。
- 代表者を選挙で選ぶ場合、代表候補者が意思表示をして選挙を行うべきだ。これがなかったら選挙として成立しない。
- 選挙となると管理委員会が必要になるなど非常に煩雑。ゆるやかなネットワークであるサロンになじまないのでは。

5. 閉会挨拶 中塚氏より

<感想・意見（中塚義実）>

板橋区在住の私にとって、西が丘はお散歩コース。この日も自転車で登場した（懇親会後の帰り、カーブを曲がり損ねて転倒したのは誤算だった）。JISS設立に至るまでの経緯の話が、"競技力向上"の観点からの日本スポーツ発展史として非常に面白かった。スポーツに携わる人間は、今日のような話をきちんと把握しておくべきだと思った。

続いて開催された総会は、短時間で密度の濃い議論ができて大変有意義だった。ネット上のゆるやかなつながりとして発展してきたサロン2002だが、月例会や出張とともに総会も、直接顔をつき合わせて話ができる大事な機会である。

議事録には掲載されていないが、議論の中でいくつもの重要な指摘があった。それを掘り起こしながら、「サロン2002のあり方」に関していくつか述べておきたい。

サロン2002では、入会の"意思表示"をして"会費"を納めてはじめて会員となる。どちらか一方だけというのはだめ。入会の意思表示も"年度ごと"に行い、その都度確認することになっている。このあたりが学会やOB会とは異なる部分である。

昨年度の会員だったある方は、「現在、海外に駐在しており、会費を納入できる環境になく、当事者としても関わるできない」ことを理由に本年度は休会されている。その代わり「帰国したらまたよろしくをお願いします」とのこと。このような感覚でいてもらいたい。

何らかの事情で関わるができなくなった人は休会してもらってかまわない。サロンの活動の概要は、会員でなくてもHPで把握できる。再び関わるができる状況になれば再度入会申請していただきたい。サロンの"志"に賛同し、当事者として"Give and take"の関係でかかわろうという意志のある方がその年度の会員なのである。

同じことだが、組織として展開するために「代表」や「役員」といったポストが生まれたが、それによ

って中心と周縁が分化するのは避けたい。「中心となって進めてもらえる人に引っ張ってもらって…」というような他者依存型の関わり方は不要である。サロン 2002 の当事者として、「中心となって」（そういう自覚を持って）動こうという意志のある人がその年度の会員なのである。。

こういった組織のあり方自体が、これからの市民社会における一つの提案でもある。

それでもなお、ボランティアベースの市民活動において、中心となってぐいぐい引っ張っていく人物の存在が不可欠であることは重々承知している。だからこれからも気合いを入れて、サロン 2002 という非常に興味深い"社会実験"がどこまでいくのか、楽しみながら取り組んでいきたい。

ワールドカップがやってくる。